迫られる無人化へ

北線の五駅

カケ声だけの絶対反対では―

二十四日の足寄町議会の臨時会では国鉄池北線の合理化には絶対に反対を再確認するとともに、二十四日には本別、足寄、陸別の三町の「住民の足を守る会」の代表六十余名が釧路鉄道管理局を訪れて峰営業部長らに反対を申し入れ、十一月四日に足寄町役場に三町の代表三十余名があつてその経過をもちよつて協議した結果、こんどは三町の町長がそろつて七日に釧鉄局へ反対要請にくり出すことにしたところ、逆にその日に峰営業部長らの釧鉄局側が合理化実施の説得のために足寄町で三町長らと会見したものの、話し合いはいずれも平行線のままで

一、三町側の要請を入れて局側の沿線住民に対する説得工作はやめる

二、こんご局側としては三町当局を窓口にして交渉をすることになりました。

しかし釧鉄局としては住民の意見は充分にきくが合理化計画の実施はやめるわけにはいかない、できれば早く実施したい―とのことで、歩みよりの余地はなく三町としては過疎をさらにすすめる合理化はやめてもう少し利用できるように改善してほしい―とカミ合わないままに物わかれ。

五駅合せて一日四万五千円也

合理化の対象となつている五駅の一日平均の乗降客と旅客運賃収入はつぎのとおりで（四十九年度の集計で、本年度はさらに減収の見込み）

仙美里	八八人	一三、五九〇円
愛冠	三四人	五、六九〇円
上利別	七〇人	七、八三四円
大誉地	九五人	一三、二四二円
小利別	二九人	五、五九四円

五駅を合せても一日平均四万五千円そこそこで、人件費の半分にも達しない実状で、これまで「親方日の丸式」にやつてきたうはいかなくなり、国鉄としてはなにらかの対策を考えざるを得ないところで、打ち出されたのが広尾線、士幌線につづいて池北線五駅の無人化で（上利別と小利別には列車入れ替えのため各一名を配置）駅をなくしてしまうわけでなく乗降場として利用してもらい、切符は列車内で買つてもらい、手荷物、貨物は隣接の本別、足寄、陸別の各駅でということになります。

これまでにくらべてご不自由をかけますが、これもみなさんが選んだ先生方（自民党の代議士）の決めたことなので…とは国鉄側の言い分です。

無人化の後の対策がなくては

合理化の対象とされている地域住民が反対をし、その町村議会が反対の決議をしている駅については国鉄としては手も足も出せないのならまだしも、駅を廃止するのではなく有人駅を無人駅にするのは国鉄の権限であつて町村にはなんの歯止め策もないこと。

ただ反対の与論をもりあげて反対署名をあつめて国鉄側へ提出しても、その署名数が多ければ多いほど逆にそれほど要望の強い鉄道をなぜ大いに利用してくれないのかということになりそうで、反対運動の指導者はマイカーを乗りまわしていれば、釧鉄局へ大挙して押しかけるさいもバスで往復して列車に用事はないといわんばかりの運動風景。

おそかれ早かれ五駅の乗降場化は既定の事実で、七日に来町した峰営業部長らは実施する場合の地元の意見や要望などをきいて、できるだけ地元の意向にそつて実施したい態度を示していましたが、水元、小林、杉田三町長ともに住民の絶対反対の姿勢に水を指すわけにはいかず、町長自らが腰くだけとみられるのを意識してさけたのか、こんちは、さようなら式の硬直した会見に終始した格好。

どうせやられてしまうものとするならば、次善策として住民のためによりよき条件をかちとることが理事側者の立場で、五駅を三駅でくいとめるなり、無人化された場合の駅舎の保守、管理や利用者の利便などについては事前に当局と話し合うことはなにも住民を裏切る行為ではない筈で、ただ議会や住民側の威勢のいい絶対反対のカケ声だけに踊らされて気嫌ねしながらウロウロしている時機ではなく、このままで当局によつて〝見切り発車〟されたのでは無責任のソシリは免がれないこと。

とかち新聞
主筆　松山明
北海道足寄町　とかち新聞社　T2551
毎旬5の日発行　1カ月200円
1カ年分前納の場合に限り2、000円

ニュースを斬る

☆…なんのことはない、酒、たばこ、郵便料金の値上げ法案をめぐつて国会はことしの春から暮に至るまでキリキリ舞い。

☆値上げは春からの予定がおくれてもう暮れに押し迫つて通過する見通しもハツキリせず、かりに通過したとしてもこうなつてはわずかな収入となるのに、なぜ自民党はこの法案にこだわるのかということ。

☆…常に国会に野党との対決法案のタネを消さないことが自民党の国会対策であり、対話と協調の三木内閣を失敗させて早期退陣をねらう党内派閥の作戦でもあり、基本的には大衆からカネを収奪する保守党政治の原理、原則。

☆…国会に百の法案を提出したとすれば、おそらくそのうち七十は野党の反対にあつて修正するなり、あるいは自民党の多数決によつて処理されており、なんの